

ブラッコム山 オーバーロード&デッカー・ループ 山旅報告書

No. 1 2

日 時：2026 年〔令和 8 年〕7 月 14 日

参 加 者：岡村眞由美・岡村繁雄 他 2 名

行 程：アッパー・ビレッジ〔ブラッコム・ゴンドラ〕⇒ ランデブー・ロッジ ⇒ リフト下分岐 ⇒ ブラッコム湖 ⇒ トレイル最高点
⇒ DECKER TARN ⇒ リフト下分岐 ⇒ ランデブー・ロッジ〔ブラッコム・ゴンドラ〕⇒ アッパー・ビレッジ

WHISTLER BLACKCOMB のゴンドラ・リフト料金

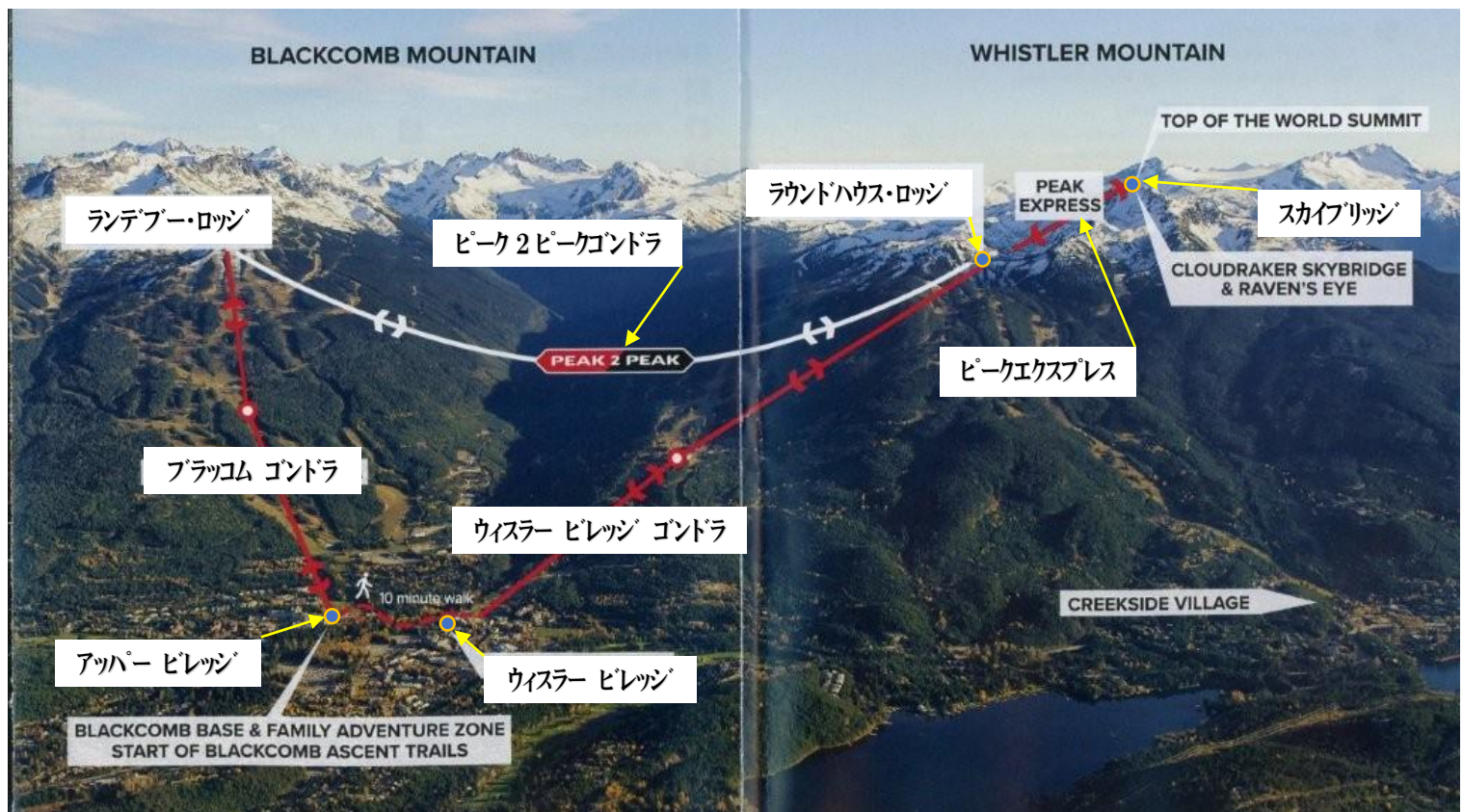
2026 年 6 月 13 日～9 月 7 日 1 日券 大人 \$ 110・シニア（65 歳以上）\$ 100

シーズンパス 大人 \$ 170・シニア（65 歳以上）\$ 160

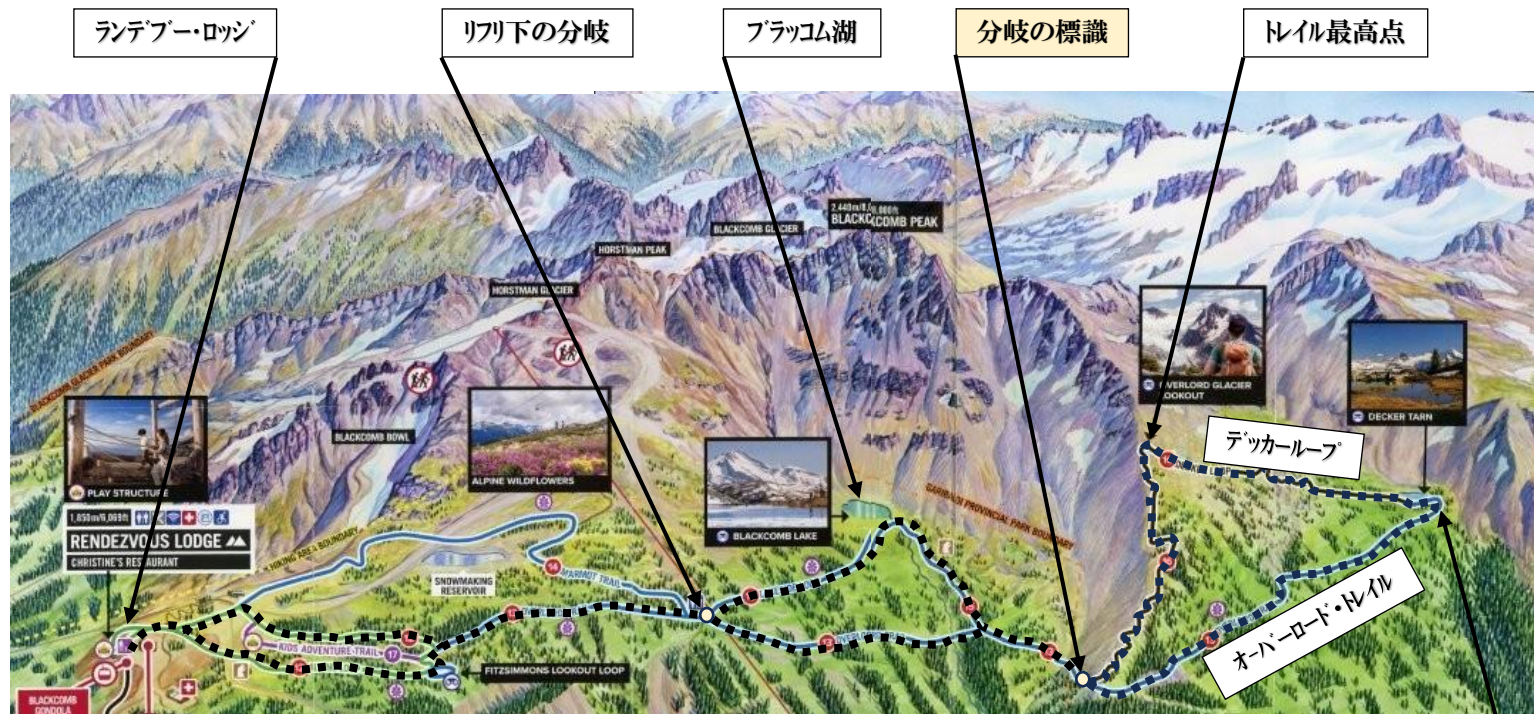
行動時間：5 時間

ウィスラーには、ウィスラー山とブラッコム山の大きな山が二つあり、ブラッコム山へはアッパー・ビレッジ(Upper Village)より、ウィスラー山へはウィスラー・ビレッジ(Whistler Village)より、それぞれゴンドラがあり、その二つの山頂を PEAK2PEAK のゴンドラで結ばれていて、冬はスキー場、夏は、非常にスケールの大きな山岳リゾートとなっている。

ブラッコム山の山頂周辺には、オーバーロード&デッカー・ループのハイキングコースがあり、ウィスラー山の山頂周辺には、ハーフ・ノートのハイキングコースがあったが、今回は、これまで疲れがかなり蓄積しているため、大事を取ってオーバーロード・&デッカー・ループの方が途中撤退しやすいコースであるためこのコースに出かけることとした。

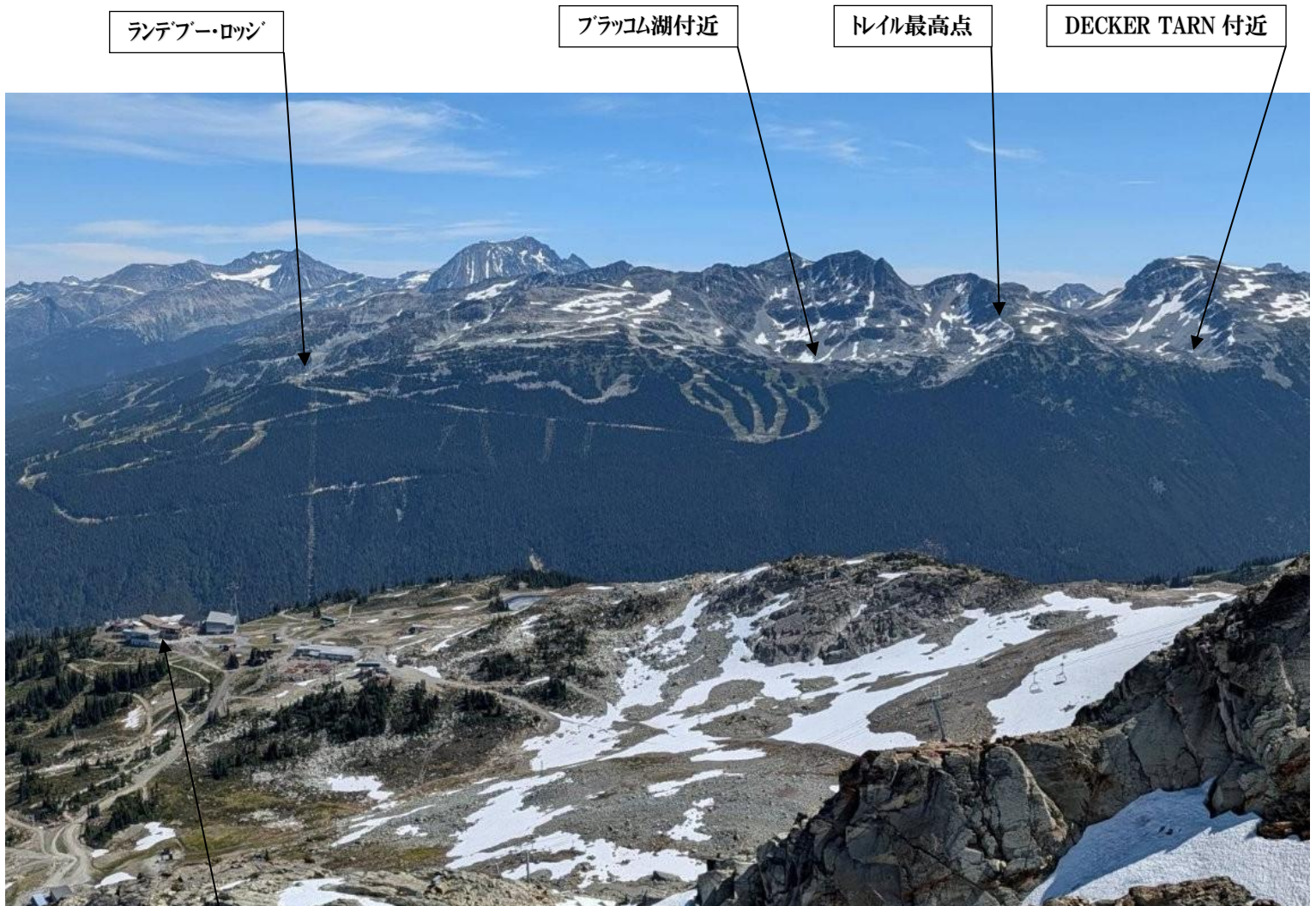


WHISTLER BLACKCOMB パンフレットより



オーバーロード・&デッキカーループの掲示板より〔.....今回のコース〕

DECKER TARN



ブラックコム山を望む〔15日 ウィスラー山のスカイブリッジより撮影〕

ラウンドハウス・ロッジ



アッパービレッジの Gondola 乗り場



ブラッコム Gondola



中央 ピーク2ピーク Gondola



ランデブー・ロッジ



右手には、圧倒的な存在感を放つウィスラー山を望みながら、気持ちのよいウォークが続く



ブラックコム湖 (Blackcomb Lake)

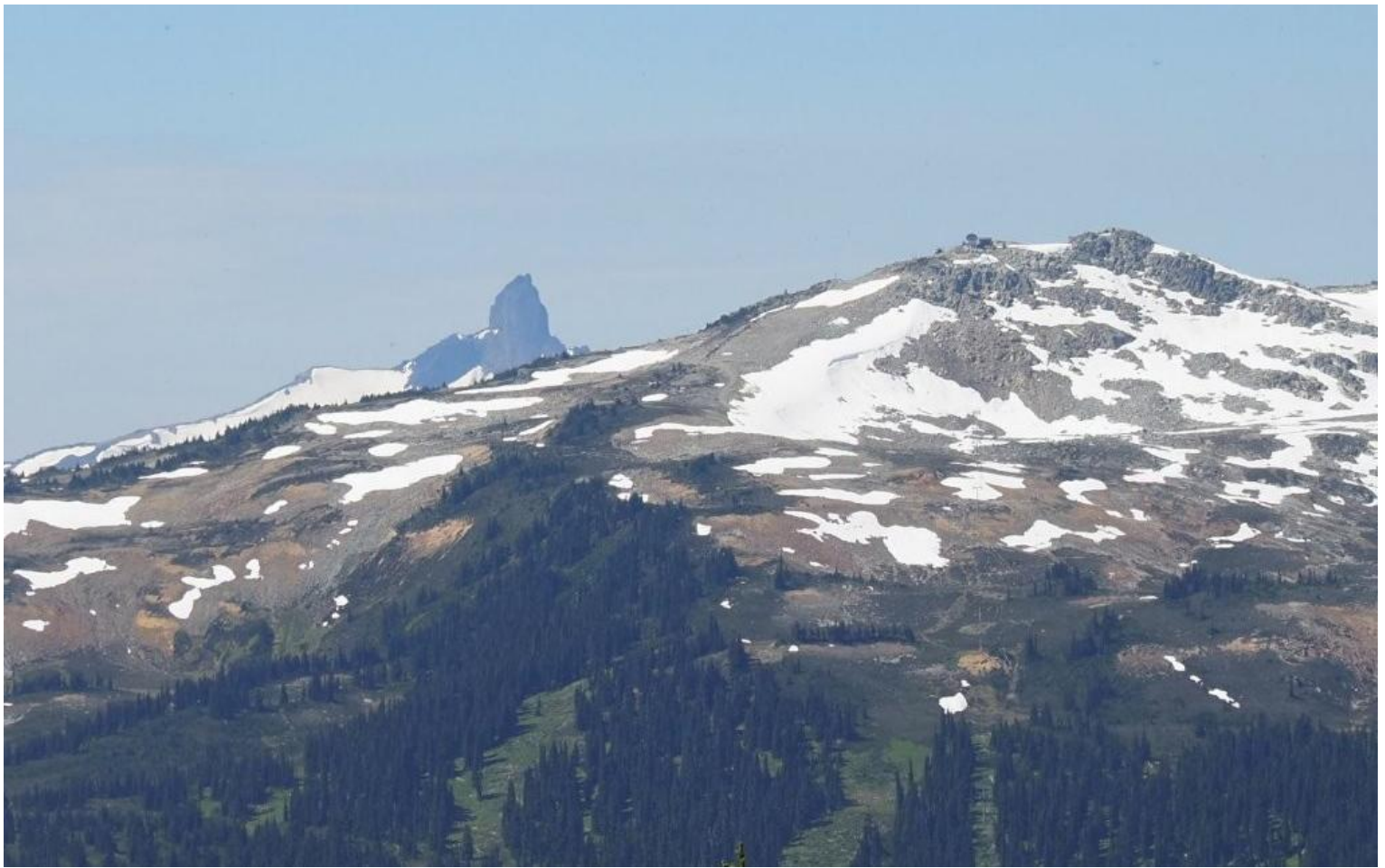




ブラッコム湖から分岐点へ下る 後方の山のすそ野にブラッコム湖がある



ブラッコム湖から分岐点へ下る ここでもウイスラー山が目の前に望め素晴らしい



ウィスラー山体の左側には、ひととき特徴的な岩峰、ブラックタスク(Black Tusk)が望めた〔望遠〕



デッカー・ループ 1時間15分

オーバーロード・トレイル 1時間5分

分岐の標識



トレイル最高点への登り

分岐の標識では、デッカー・ループ 1 時間 15 分、オーバーロード・トレイル 1 時間 5 分、と記載されている。分岐からトレイル最高点経由まで 40 分そこから、池のある DECKER TARN まで 40 分、合わせて 1 時間 10 分でほぼ標識に記載されていたデッカー・ループ表記時間で歩くことができていた。DECKER TARN から標識までの下りは、40 分で一周 2 時間を要した。



トレイル最高点への登り時後方 ウィスラー山を望む



トレイル最高点よりブラッコム山と左下にブラッコム湖を望む

先ほど通過した、ブラッコム湖も眼下に見ることができる。周辺には、ところどころ残雪も残っており、かなり疲れ切って登ってきたが、それだけに似合う眺望が目の前に広がった。



トレイル最高点にて



残雪に寝っ転がって一休み



トレイル最高点より DECKER TARN へ下降



小さな池で 水着姿で楽しんでいるグループ

トレイル最高点休憩後、DECKER TARN 地点へ向けて下降。途中の雪渓では、寝転がってしばし休憩し、雄大な自然を満喫した。

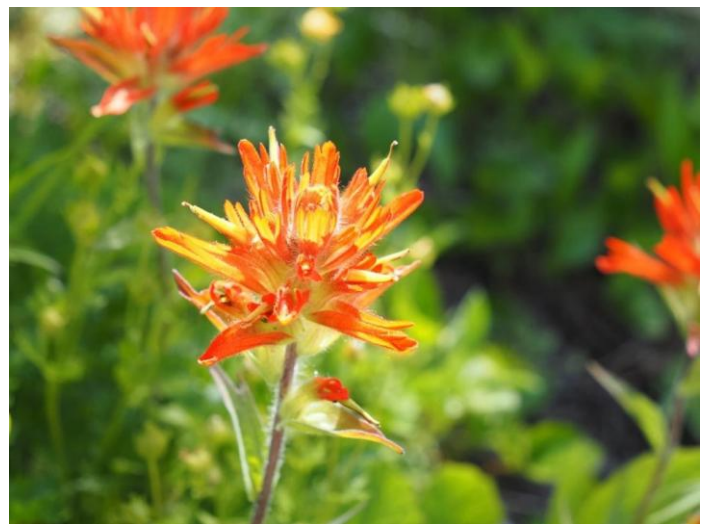
トレイルの一番奥の DECKER TARN 地点に位置する小さな池では、数名のグループが池で泳いだり飛び込んだりして楽しんでいた。



DECKER TARN 地点にある小さな池〔望遠〕



お花畑とウィスラー山



オーバーロード・トレイル&デッカーループは、山頂近くの山腹を巡りながら、対面するウィスラー山を常に望むことができ、周囲の雄大な山々を楽しめる素晴らしいトレイルコースである。

特にブラッコム湖周辺は景観が素晴らしく、また、やや急な登りとなるトレイル最高点からの眺望も見事であった。かなり疲れが蓄積した中での登りであったが、苦勞して登っただけに、眼下に広がるブラッコム湖や雄大な山々の眺めは格別で、疲れを忘れさせてくれるほどであった。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura